

第74回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会北海道大会

令和6年度 第1回理事会 会長挨拶 井口 美由紀



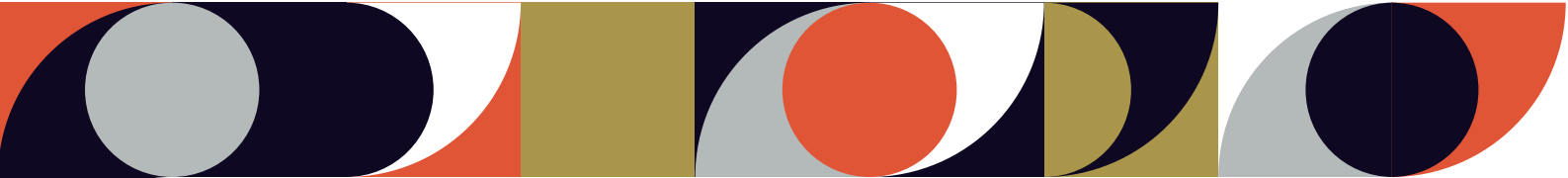
理事の皆様、おはようございます。

今年1月の能登半島地震では、本会会員の学校にも甚大な被害が及び、子供たちへの心のケアや安全対策、避難所運営等で、大変な思いをされたと聞いています。また今月の東北地方での大雨でも大きな被害が出ました。災害に遭われました方々に対しまして、心よりお見舞いを申し上げますとともに、平穏な日々が一日も早く戻ってくることを祈念いたします。

本日は、夏季休業中とはいえ、校務御多用のところ、朝早くからお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、皆様には、日頃より、各地区の女性校長会の推進役として、本会の円滑な運営にお力添えを頂いておりますことに、改めて感謝申し上げます。

この理事会は、本会の令和6年度の活動方針案や事業計画などについて、御審議いただき、御理解・御協力を得るとともに、本会の活動をより活性化させ、発展させるための御意見を頂戴する場でもあります。限られた時間ではありますが、有意義なひとときになるようお願い申し上げます。

さて中央教育審議会の特別部会では、5月13日に「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」審議のまとめを発表しました。教師を取り巻く環境の現状から環境整備の基本的な考え方、働き方改革のさらなる加速化へと論を進め、学校・教師がこれまで担ってきた業務について、「基本的には学校以外が担う業務」「学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務」「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」の三つに分けて対応策を各自治体における取り組み例を挙げながら具体的に例示しています。清掃の日を週二日に限定する、昼休み時には地域住民が来校して子供の見守りをするなど、学校で取り入れることが可能なものもたくさんありました。またGIGAスクール構想で進んだ一人1台端末を活用することで、児童への配布資料を紙の資料からクラウドへのアップロードに替えたり、持ち物の連絡などもアプリを活用して配信したりする等の工夫で、学校現場の働き方改革も同時に進んでいます。



「教員の働き方改革」として、学校には教員の事務補佐やスクールカウンセラー、地域と学校を結ぶコーディネーターなど様々な外部人材が入り、ICT機器の利活用が進んだことも含めて、教員を取り巻く環境は大きく変わっています。


本会でも、平成29年度に開催された、文部科学省主催の「教員の働き方改革に向けた勉強会のヒアリング」に、会長が講師として参加し、学校現場の声を伝えて参りました。諸外国での教育現場と日本とを比較し、教師しかできない業務に集中できる職場環境の整備と、外国語科の教科担任制、教員の事務をサポートする事務補佐を置くこと、小学校高学年の教科担任制の実施、免許更新制度の廃止などを強く提言してきた経緯があります。これらの提言内容は、ほぼ、現在、実現の方向に進んでいます、従って本会の果たしてきた役割は大きいといえます。

さらに、私達にとって、最も重要なことは、誰かから何かをしてもらうのが当然と考えるのではなく、自らが社会にどう貢献できるかを模索し、挑戦する創造性に富んだ人間を育てることだと考えます。私達女性校長は、地域の特性を生かしたカリキュラム・マネジメント能力をもつ教師を育て、自らも教育は日本の、そして世界の未来を創るという気概をもって先駆的な学校経営を実践してまいりましょう。

本会が毎年発行しております「活動状況調査報告」によりますと、少しずつですが、全国的にも会員数は増加傾向にあります。真の男女共同参画社会の実現には、まだまだ程遠い現実があることを、私達はしっかりと認識していなければなりません。そして、すべての人にとって働きやすい社会となることを目指して、私達女性自身の意識改革も必要です。その点、一般社会における女性管理職としての先進的な役割を担ってきた女性校長の役割は、最も重要だと考えます。一人一人が、後に続く働く女性教師をしっかりと支え、先輩方のように憧れの「ロールモデル」となるべく努力してまいりましょう。

本大会の研究主題は、「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」、副主題は、「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」です。今年も、各地域を代表する優れた実践を通して互いに学び合い、高め合い、深め合う研修の場といたしましょう。

最後になりましたが、本大会に向けて、計画的に周到的な準備を進めてこられた、山下 尊子 北海道公立小・中・特別支援学校女性管理職会会長、福島 由紀子 大会実行委員長をはじめ、北海道の実行委員会の皆様に心から感謝申し上げますとともに、全国からお集まり頂きました会員の皆様に、北海道大会の2日間を満足して頂けるよう、理事の皆様の方の強い御支援をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。



令和6年度 第1回理事会 顧問挨拶 宮崎 朋子



理事の皆様、おはようございます。日頃より、本会の様々な活動に御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。そして、本日、理事会、並びに北海道大会に参加し、北海道実行委員の先生方への応援をいただきますことにも心よりお礼申し上げます。

さて、ただ今、パリオリンピック大会が開催されております。思い返せば前回の東京大会では、私が勤務している東京都はオリンピック・パラリンピック教育の推進に積極的に取り組んでおりました。その中で印象的だったことは、出会ったパラリンピアンや競技関係者の方々が全員、パラスポーツの振興を通して、「多様性が認められる社会」を目指しておられることでした。

創意工夫を凝らして「どうしたらできるのだろう」と、ルールを見直したり、道具を開発したりする中で、人間の限界に挑むパラリンピックは、私達に社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、発想の転換が必要であることにも気付かせてくれます。

そして、この選手はどうしてこんなに頑張れるのだろうという疑問には、その答えが、選手の数だけあることから、違いを知るこのおもしろさや楽しさを教えてくれるのもパラリンピックです。

このような、パラリンピックの多様性や共生社会への願いを実現させるためには、まず、私達の無意識の思い込みを払拭する必要があると感じています。私達の会の名称に「女性」とつくことに抵抗感をいただいている方もいると伺います。しかし、まだまだ、女性・男性の役割の思い込みや大きな不平等はこの日本社会に存在しています。そして、なんと、男女平等において世界第一位のアイスランドの女性たちは、「今でも男女の格差が残っている。」と認識していると知り、驚きました。この女性たちの意識の高さに感服すると同時に、男女平等の真の実現の困難さを実感いたしました。私達女性校長は、教育者として男女の差をなくす、ということではなく、一人一人が公平に活躍できる真の共生社会を作っていくことに、力を尽くしていかなければならないと、強く考えます。

私達のこの全国研究協議大会は、学ぶ意欲にあふれた校長先生方が集まっており、毎年、来ていただいた来賓の皆様、「参加者の熱意に感心した」という、お言葉をいただいております。北海道の実行委員会の皆様の熱い思いと実行力に私達全員が応えるためにも、この貴重な学びの場を、理事の皆様と共に、より一層充実した会にし、学びを深めてまいりましょう。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

開会式 挨拶 全国公立小・中学校女性校長会 会長 井口 美由紀



挨拶に先立ちまして、今年元日に起きた能登半島地震、そして今月の東北地方での大雨による被害に遭われました方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く平穏な日常が戻ってくることを祈念いたします。

本日、第74回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会を、壮大な景色と豊かな自然に恵まれた北の大地、北海道札幌市において、このように盛大に開催できますこと、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

本日は公務御多用の中、

文部科学省初等中等教育局視学官 藤枝 秀樹 様

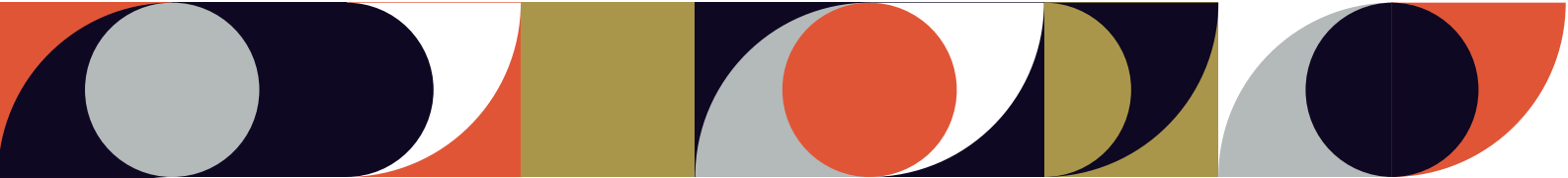
北海道副知事 三橋 剛 様

札幌市長 秋元 克広 様

をはじめ、御多用の中、御臨席を賜りました御来賓の皆様、また、開催にあたり、力強い御協力・御支援を頂戴いたしました関係諸機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

本会は、多くの諸先輩方の御努力により、女性校長の地位の向上と教育現場における人材育成を図りながら、学校教育の振興に寄与してまいりました。昭和26年、女性校長80名でスタートした当時は、戦後の混乱期を抜けたとはいえ、まだまだ女性にとってはかなり厳しい社会状況の中にありました。しかし「同志よ 弱らないで、誠実は奇跡を生む。」と励まし合い、助け合い、「知性・感性・品性」を大切にしながら、世の信頼を得てまいりました。以来今日まで、その意志や活動が連綿と引き継がれ、ここに第74回全国研究協議大会を開催するに至りました。

昨年に続き、対面での開催となります。本会は、コロナ禍の中でもオンライン等を活用して全国研究大会を継続してまいりました。全国各地それぞれの学校の置かれた状況は異なっても、志を同じくする女性校長が集い、教育課題についてそれぞれの学校の具体的な取組を聞き、学び合う機会として、本会主催の全国研究協議大会は、たいへん価値ある有意義なものと考えます。




6月12日に世界経済フォーラムが公表した2024年のジェンダー・ギャップ指数は、世界146か国中、日本は118位でした。現在開催中のパリオリンピックはジェンダー平等を理念の一つに掲げ、オリンピック史上初めて男女の選手数が同数となると話題になりました。しかし日本に目を向けると労働参加率の男女比や同一労働での賃金格差などの大きな改善は見られず、女性管理職比率の低さは世界的に見ても、低水準のままです。さらに、教育の分野においても細かく見ていくと、識字率や中等教育就学率における男女比は1位であるにもかかわらず、高等教育就学率に目を向けると大きな男女の格差がありこの点においては107位です。このデータからは、「女性は大学まで行かなくてもいい」という考えが根強く残っていると考えられます。こうした教育格差が就職や昇進などの際の男女の経済格差にもつながっています。社会の中に存在する「アンコンシャス・バイアス」に気づき、それを変えていこうとする子供を育てていくことも教育の大きな役割であり、子供の成長に直接かかわる私達女性校長の使命と考えます。

変化していく未来を見据え、子供たちに必要な力を身に付け、一人一人の可能性を大きく伸ばしていくためには、そこに関わる教員の確実な育成も私達校長にとっては、重要な仕事です。今、教員が教材研究に取り組み、児童一人一人と向き合う時間を確保するために、学校現場には多くの人材が投入されています。教員志望者が減少し、教員不足といわれる昨今ですが、質の高い教員の育成にリーダーシップを発揮し、未来社会を担う人材を育てていくという、強い意志とロマンをもって、私達女性校長はこれからも学校改革に取り組んでまいりましょう。

そして、私達の会の果たすべき重要な役割には、一人一人が、個性と能力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図ることがあります。多くの先輩方と皆様の努力で、少しずつではありますが、教育界における女性管理職は増えてきています。しかし、全体的にはまだまだ女性校長の割合は低いという現状を、私達はしっかりと受けとめ、これからも意欲と行動力のある女性教員を育て、管理職として活躍できる人材を育成してまいりましょう。

ここ、北海道は、歴史的にみても開拓精神にあふれる土地です。明治時代には多くの人々が移住し厳しい自然環境に立ち向かいながらたくさんの産業を発展させてきました。そうしてここ、札幌市も、日本有数の住みよさを誇る経済都市となりました。このフロンティア精神を見習い、私達女性校長は、本会の研究主題「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」副主題「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」を目指し、経営力を高めてまいりましょう。

結びに当たり、歴代の北海道の理事の皆様、山下 尊子北海道公立小・中・特別支援学校女性管理職会会長、福島 由紀子大会実行委員長をはじめ、北海道大会実行委員会の皆様の3年に及ぶきめ細やかな御準備に対しまして、深く感謝申し上げます。そして御出席くださいました皆様にとりまして、この大会が、学校経営に資する多くの示唆に富んだ深い学びの場となりますことを祈念し、私の挨拶といたします。



総会 挨拶 全国公立小・中学校女性校長会 会長 井口 美由紀



本日は、全国公立小・中学校女性校長会総会に御出席いただきまして、ありがとうございます。この総会は、会員の皆様に、本会の令和6年度の活動方針案や事業計画、予算などについて、御審議いただき、御理解・御協力を得る場です。また本会の活動をより活性化させ、発展させるためのご意見を頂戴する場でもあります。限られた時間ではありますが、有意義な時間になれば幸いに存じます。

本会は、今年74回の全国研究協議大会を数える歴史と伝統をもつ会です。本会第26回の全国大会は、ここ北海道札幌市の札幌市少年会館にて開催されました。以来、北海道での開催は今回で5回目となります。毎回、新たな取り組みに挑戦し、丁寧な準備と確かな運営をしていただき感謝申し上げます。

本会は昭和26年80名で発足いたしました。当時は女性校長にとってまだまだ厳しい社会状況でありました。それでも「同士よ 弱らないで、誠実は奇跡を生む」を合言葉に、多くの先輩方が道を切り拓いてくれました。先輩方の歩んだ道は決して平坦な楽な道では無かったはず。私達は、努力を重ね、道を切り開かれた先輩方への感謝の気持ちを忘れずに、本会の活動をより一層充実させてまいりたい所存です。

本会の活動の重点の第一は、全国公立小・中学校女性校長会と各地区・各都道府県女性校長会との連携を一層密にし、組織の力を強め、活動の充実を図ることです。

本日と明日、全国各地からお集まりいただいた女性校長同士、共に学び合い、親睦を深める貴重な時間を共有いたします。その後は、校長として、それぞれの地において学校経営に邁進する多忙な日々を送ることになります。ぜひ、全国研究協議大会で学んだことを、それぞれの学校改革にお役立ていただき、地域に広げていただければ、大変有難く有意義なことと存じます。また、本会ではこれまで以上に、会報、本部だより、ホームページ等の充実を図り、全国の皆様と年間を通じて連携する組織を目指します。

今年度の活動が意義ある、充実したものとなるよう、会員の皆様の御協力を心からお願い申し上げ、挨拶といたします。